

市議会 あんな話・こんな話

話 第7話

「鹿児島市議会報創刊」

今から64年前の昭和24年（1949）、国内では湯川秀樹博士が日本人初のノーベル賞を受賞し、海外では中華人民共和国が成立したこの年の8月15日に、本紙の前身である「鹿児島市議会報」が創刊されました。当時の紙面はタブロイド判4ページで、岩切重秀議長「議会政治は民主主義の根幹」という創刊の辞が1面のトップを飾っています。

また、この年本市に大きな爪痕を残したデラ、フェイ両台風およびその前後の豪雨による災害からの復旧に関する質疑や、「時の焦点」のコーナーでは谷山、伊敷、

吉田、西桜島、東桜島の一町四村との合併問題を「大鹿児島市建設は可能か」のタイトルで報じています。「各市展望」では、「ご破算になった大分、別府共催博覧会」や「大阪の市営ピヤ・ホール」といった話題

を取り上げるなど、全国各市のトピックスが掲載されています。

その後、長い歴史の中で、名称が現在の「かごしま市議会だより」となったのは昭和44年（1969）です。紙面の大きさにも変更がありました。55年（1980）からはタブロイド判に戻っています。平成3年（1991）にはフルカラー化され、一昨年にはページを増やして、文字も大きくしました。そして、昨年2月1日号から本連載がスタートしています。この歴史と伝統のある「かごしま市議会だより」は、これからも引き続き議会の活動状況を皆様にわかりやすくお伝えしてまいります。



鹿児島市議会報 創刊号